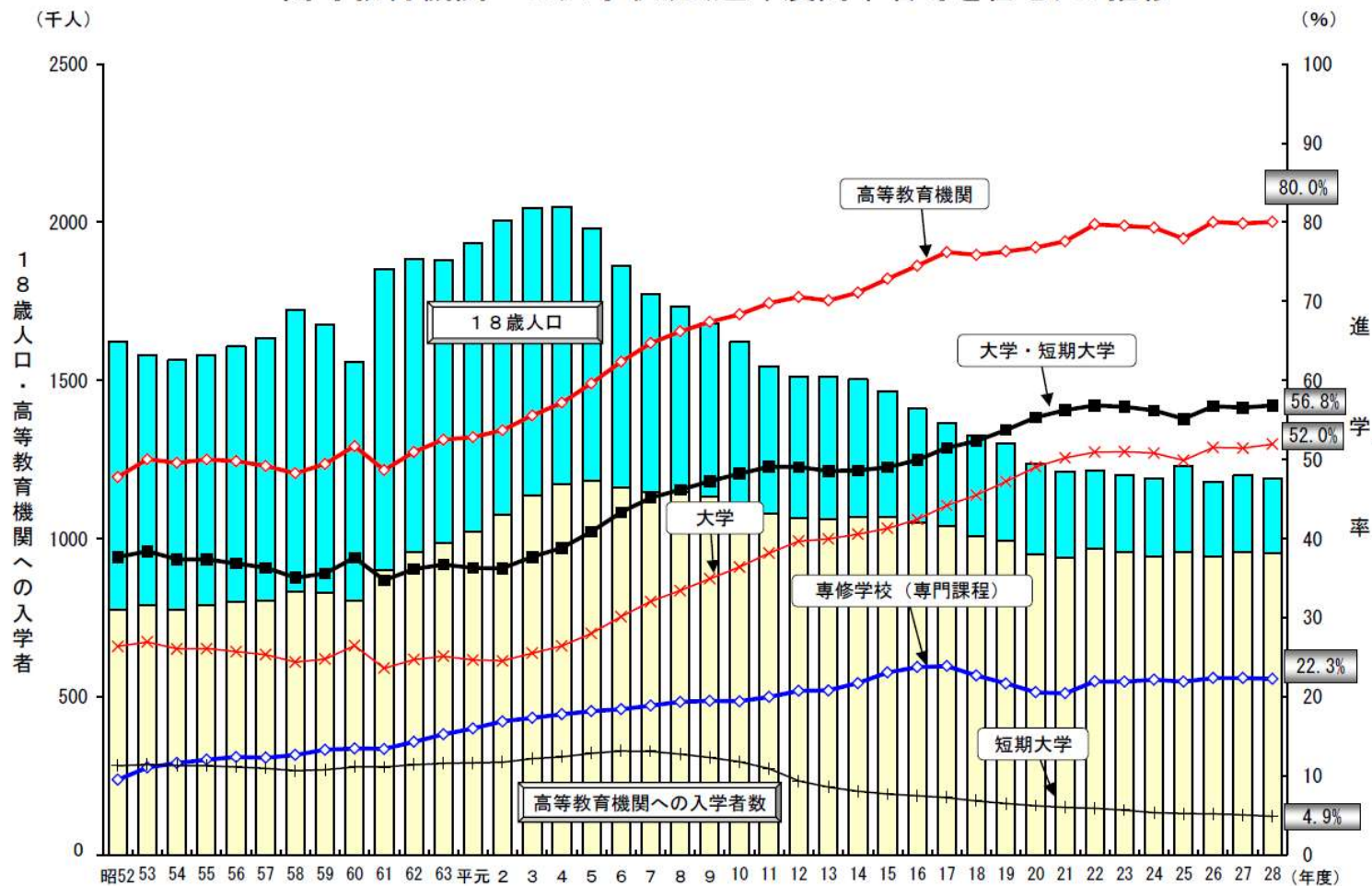


男女別大学進学率の 地域別格差の原因と影響

卒業研究発表
高谷徹(0810516700)

大学進学率の現状

高等教育機関への入学状況(過年度高卒者等を含む)の推移



- (注) 1 18歳人口とは3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数をいう。
 2 高等教育機関入学者とは、大学学部・短期大学本科入学者(過年度高卒者等含む)、高等専門学校第4学年在学者、専修学校(専門課程)入学者である。また、それぞれの進学率は入学者を3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者で除した比率である。

全国で
52.0%

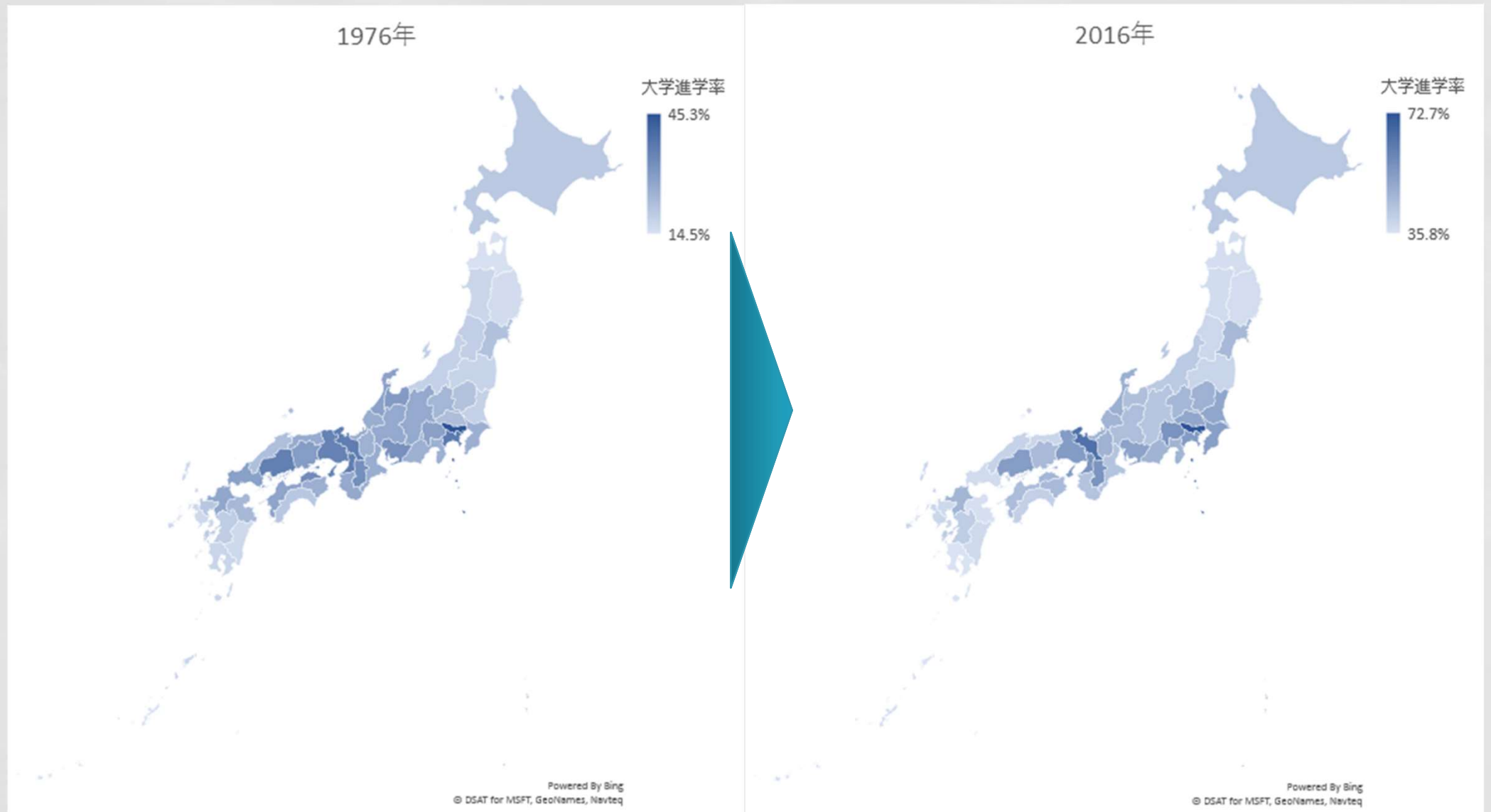
文部科学省
「学校基本調査」

大学進学率の地域差

	男女計	男性	女性	男性/女性		男女計	男性	女性	男性/女性
合計	52.0%	55.6%	48.2%	1.15	三重県	44.0%	47.2%	40.6%	1.16
北海道	42.8%	48.7%	36.6%	1.33	滋賀県	48.2%	52.6%	43.5%	1.21
青森県	37.2%	39.2%	35.1%	1.12	京都府	65.2%	68.8%	61.6%	1.12
岩手県	37.3%	38.8%	35.7%	1.09	大阪府	56.2%	60.6%	51.4%	1.18
宮城県	46.6%	49.1%	43.9%	1.12	兵庫県	54.0%	56.3%	51.7%	1.09
秋田県	37.6%	40.0%	35.0%	1.14	奈良県	56.1%	60.0%	51.8%	1.16
山形県	38.6%	40.7%	36.5%	1.11	和歌山県	44.0%	47.8%	40.3%	1.19
福島県	39.5%	43.1%	35.7%	1.21	鳥取県	39.3%	41.8%	36.7%	1.14
茨城県	51.3%	54.9%	47.6%	1.15	島根県	39.9%	42.8%	36.9%	1.16
栃木県	48.4%	52.0%	44.8%	1.16	岡山県	46.2%	48.2%	44.0%	1.10
群馬県	47.0%	49.8%	44.2%	1.13	広島県	53.9%	56.5%	51.3%	1.10
埼玉県	51.4%	57.0%	45.3%	1.26	山口県	37.7%	39.4%	35.9%	1.10
千葉県	53.2%	58.3%	47.8%	1.22	徳島県	46.2%	45.2%	47.3%	0.96
東京都	72.7%	73.6%	71.7%	1.03	香川県	47.3%	49.3%	45.1%	1.09
神奈川県	54.4%	58.4%	50.0%	1.17	愛媛県	45.5%	49.3%	41.6%	1.18
新潟県	42.3%	45.4%	39.2%	1.16	高知県	40.8%	41.3%	40.3%	1.02
富山県	44.8%	48.2%	41.2%	1.17	福岡県	47.4%	50.8%	43.9%	1.16
石川県	49.2%	52.4%	45.8%	1.14	佐賀県	38.5%	41.9%	34.9%	1.20
福井県	47.8%	51.8%	43.7%	1.19	長崎県	39.0%	41.5%	36.3%	1.15
山梨県	56.4%	63.4%	48.7%	1.30	熊本県	41.5%	43.8%	39.1%	1.12
長野県	43.5%	48.6%	38.1%	1.27	大分県	36.6%	40.5%	32.4%	1.25
岐阜県	45.2%	48.5%	41.7%	1.16	宮崎県	38.2%	42.0%	34.4%	1.22
静岡県	47.7%	52.1%	43.2%	1.21	鹿児島県	35.8%	41.4%	30.1%	1.37
愛知県	52.4%	55.4%	49.2%	1.13	沖縄県	36.7%	38.3%	34.9%	1.10

大学進学率の地域差

- 大学進学率の地域差は、時系列での変化も見られる。



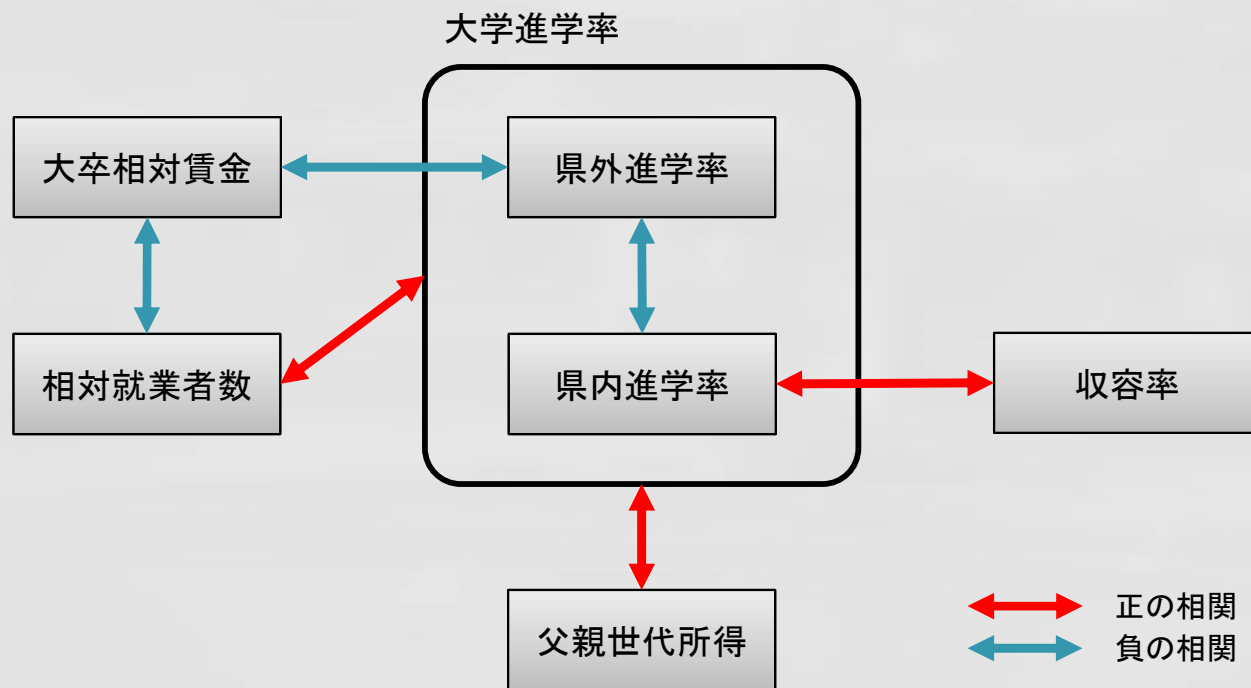
本研究の目的

- 都道府県別、男女別、時系列の大学進学率データを題材とし、その格差の原因と影響を考察する。

先行研究の分析

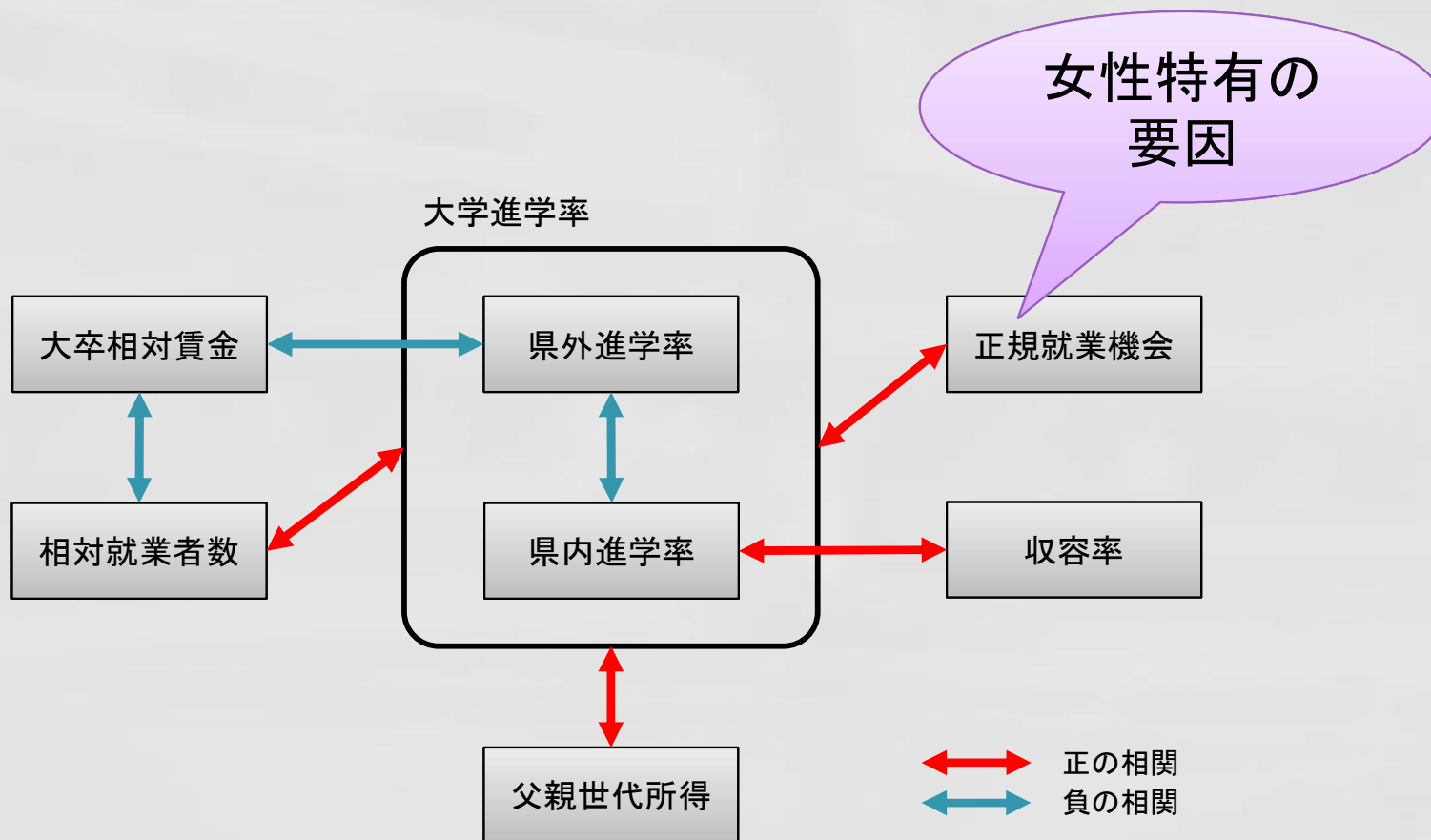
- 朴澤泰男「高等教育機関の地域格差 地方における高校生の大学進学行動」(2016年)
 - 都道府県→大都市圏、中間地方、外縁地方の3区分

男性



先行研究の分析

女性



本研究の位置づけ

● 特徴

- 短期大学への進学まであわせて分析
- 個別の都道府県についても事例分析
- 最新の2016年春のデータまで分析

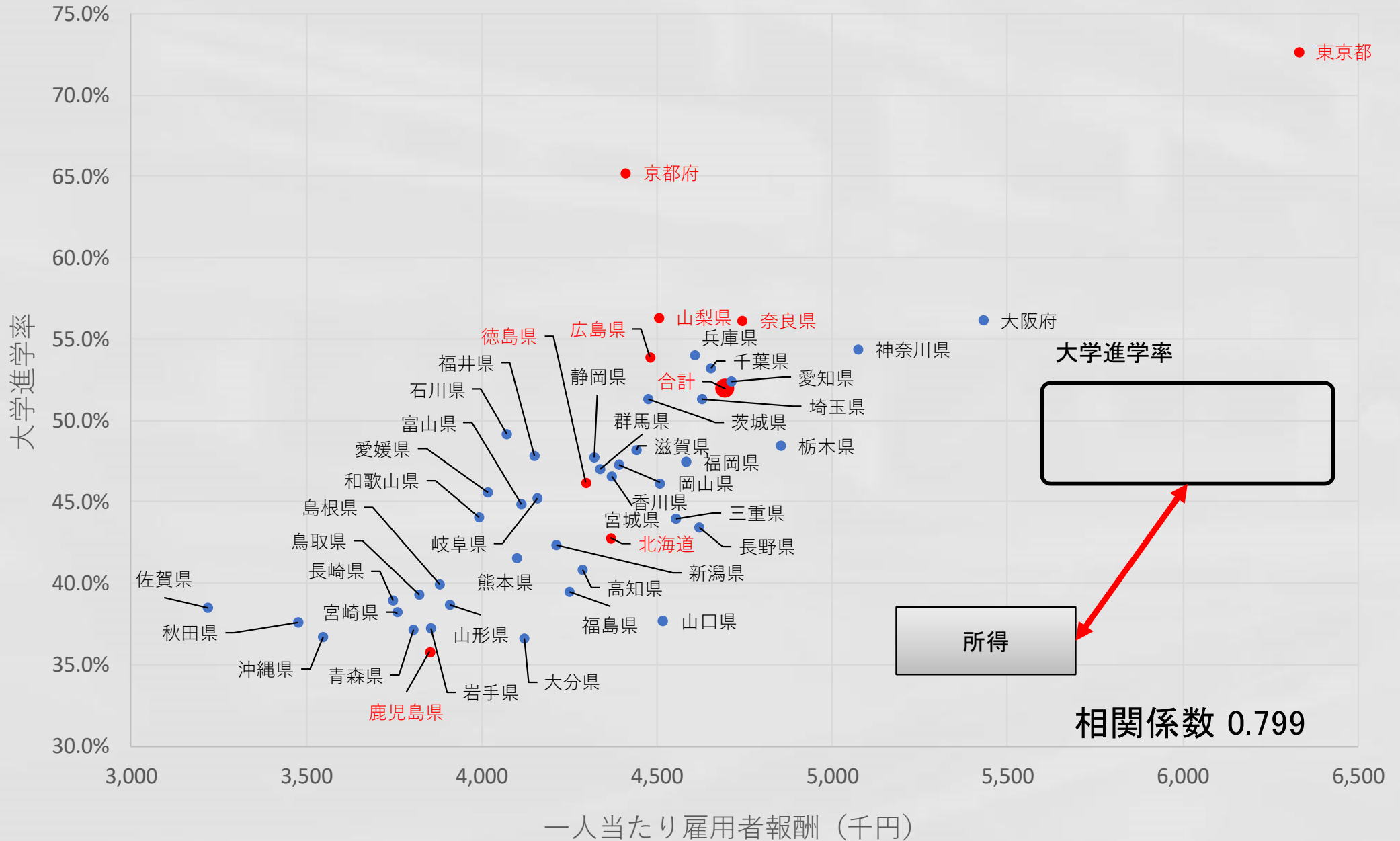
● 利用したデータ

- 文部科学省「学校基本調査」
 - 都道府県別
 - 男女別
 - 大学、短期大学
 - 1976年～2016年
- 大学(短期大学)進学率 = 大学(短期大学)入学者
÷ 18歳人口 (3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者)
- ある県の大学進学率 = 県内大学進学率 + 県外大学進学率

大学進学率を規定する要因(2016年)

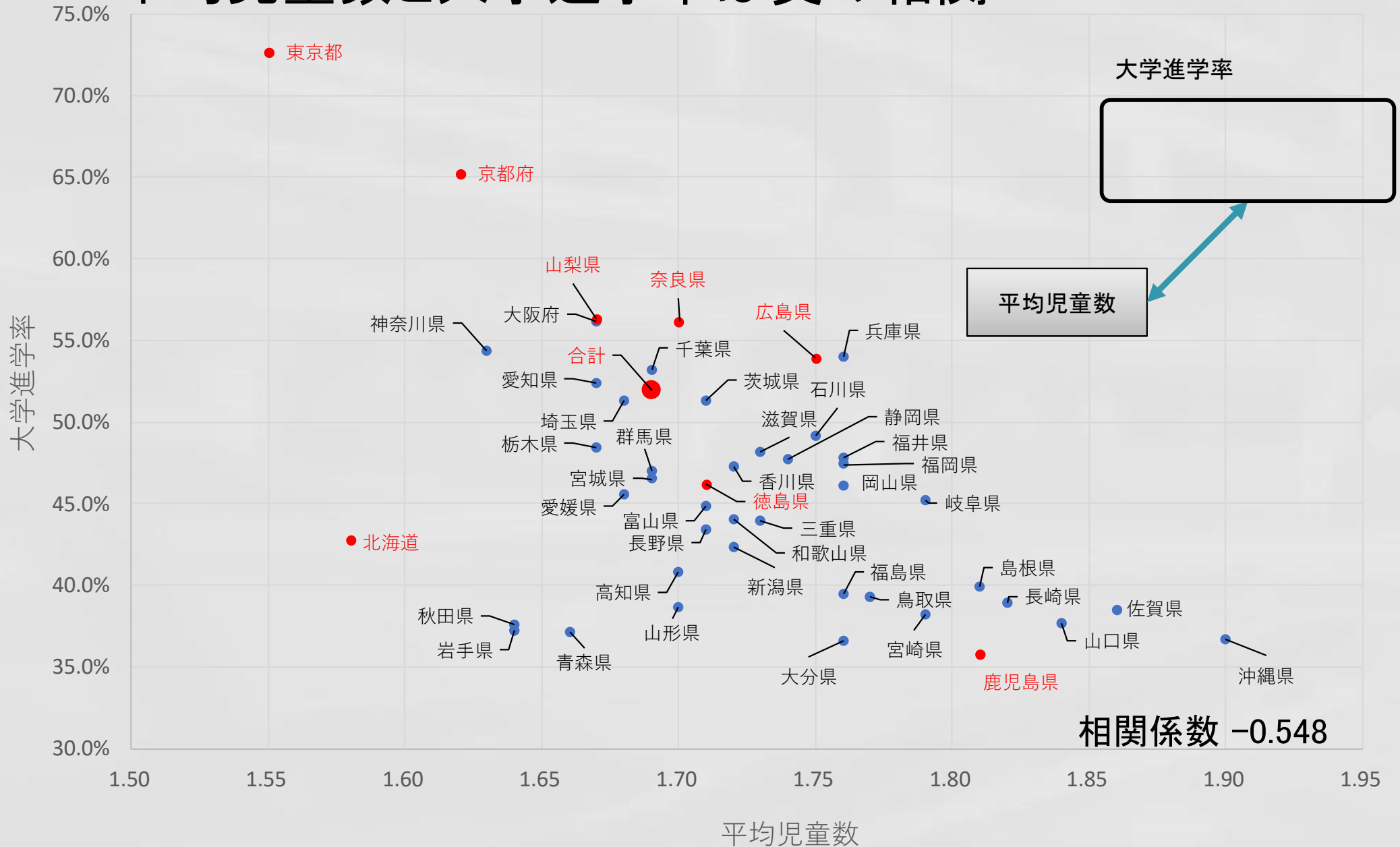
所得

● 一人当たり雇用者報酬と進学率は正の相関



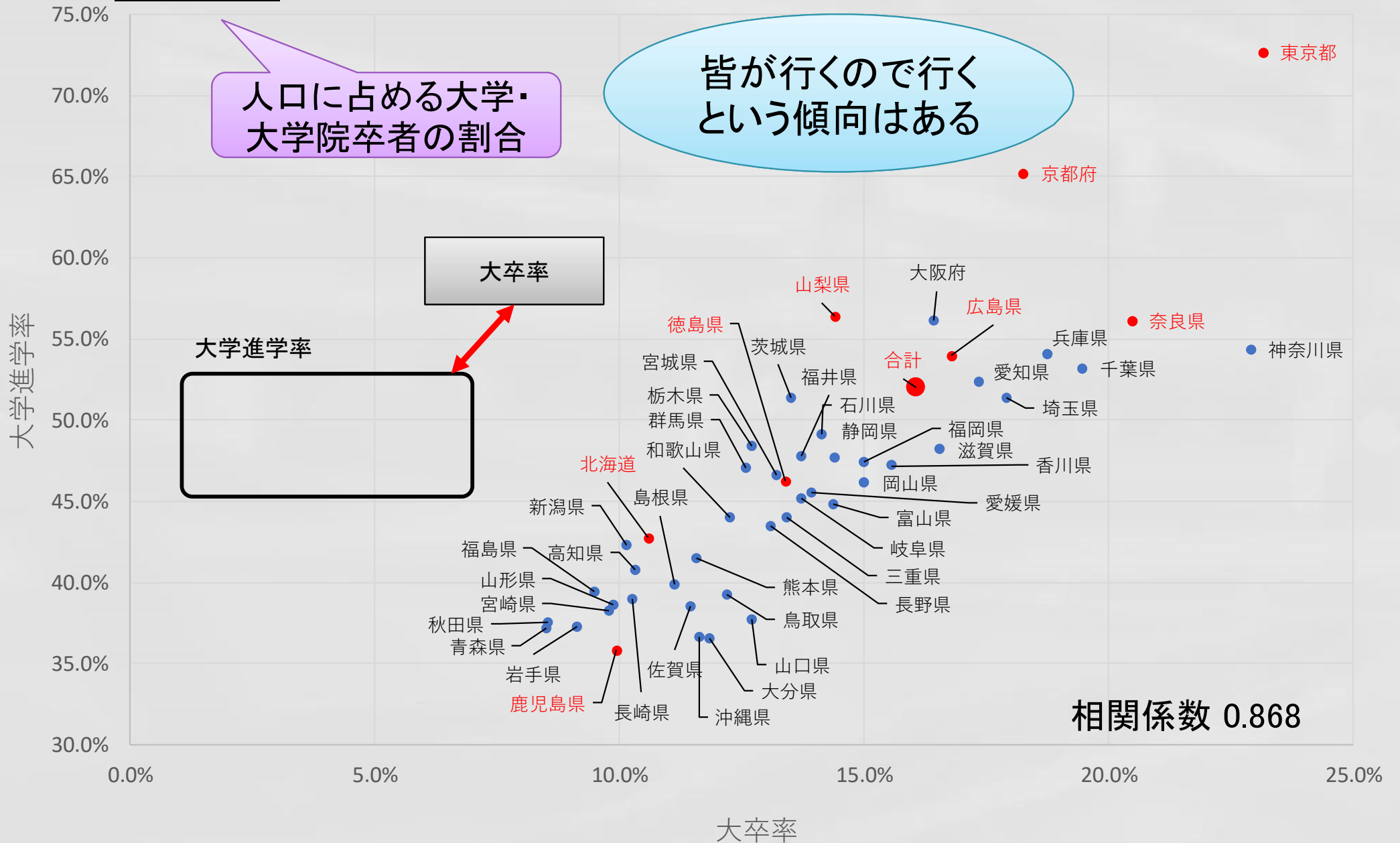
児童数

● 平均児童数と大学進学率は負の相関



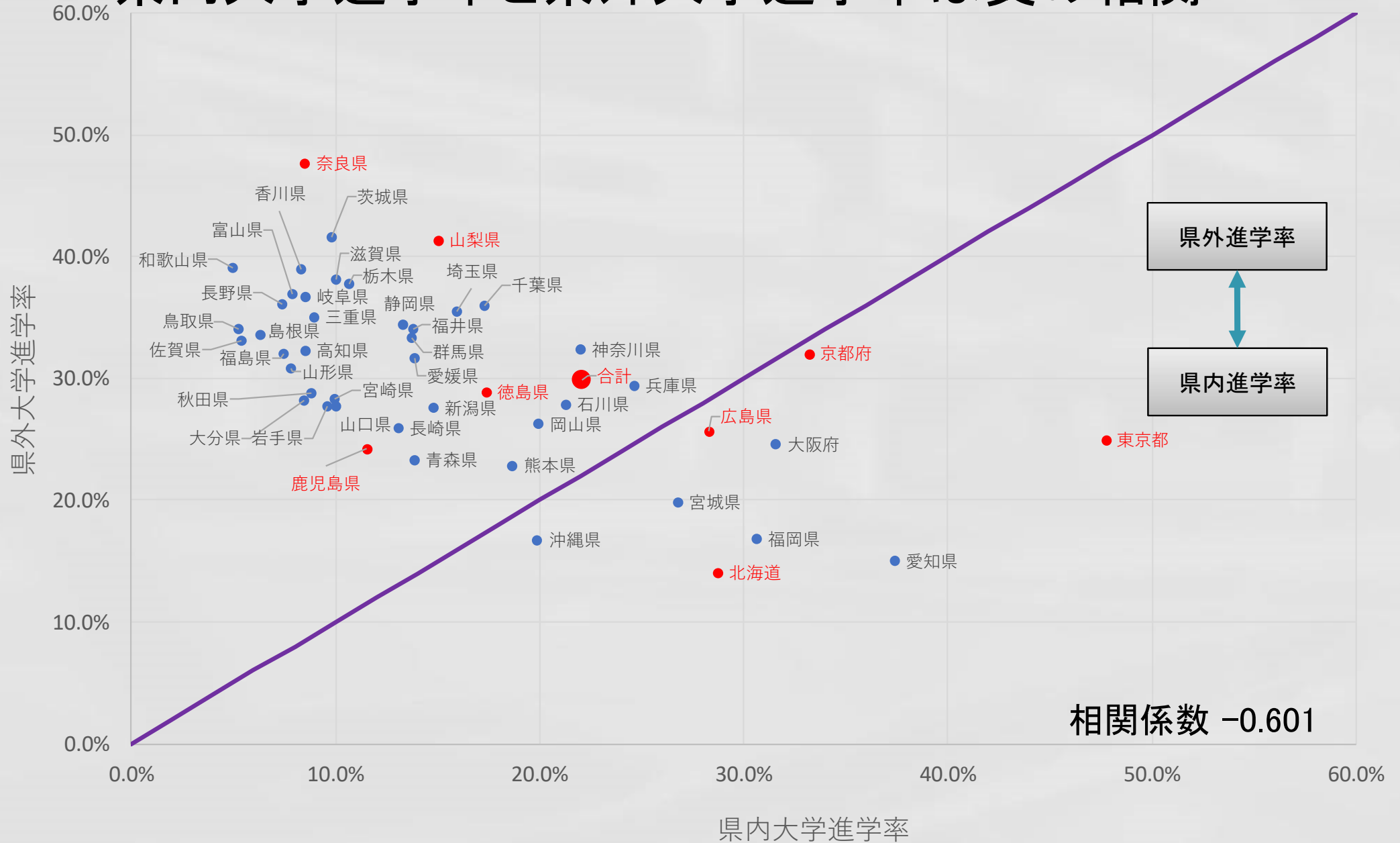
大卒率

● 大卒率と大学進学率は強い正の相関



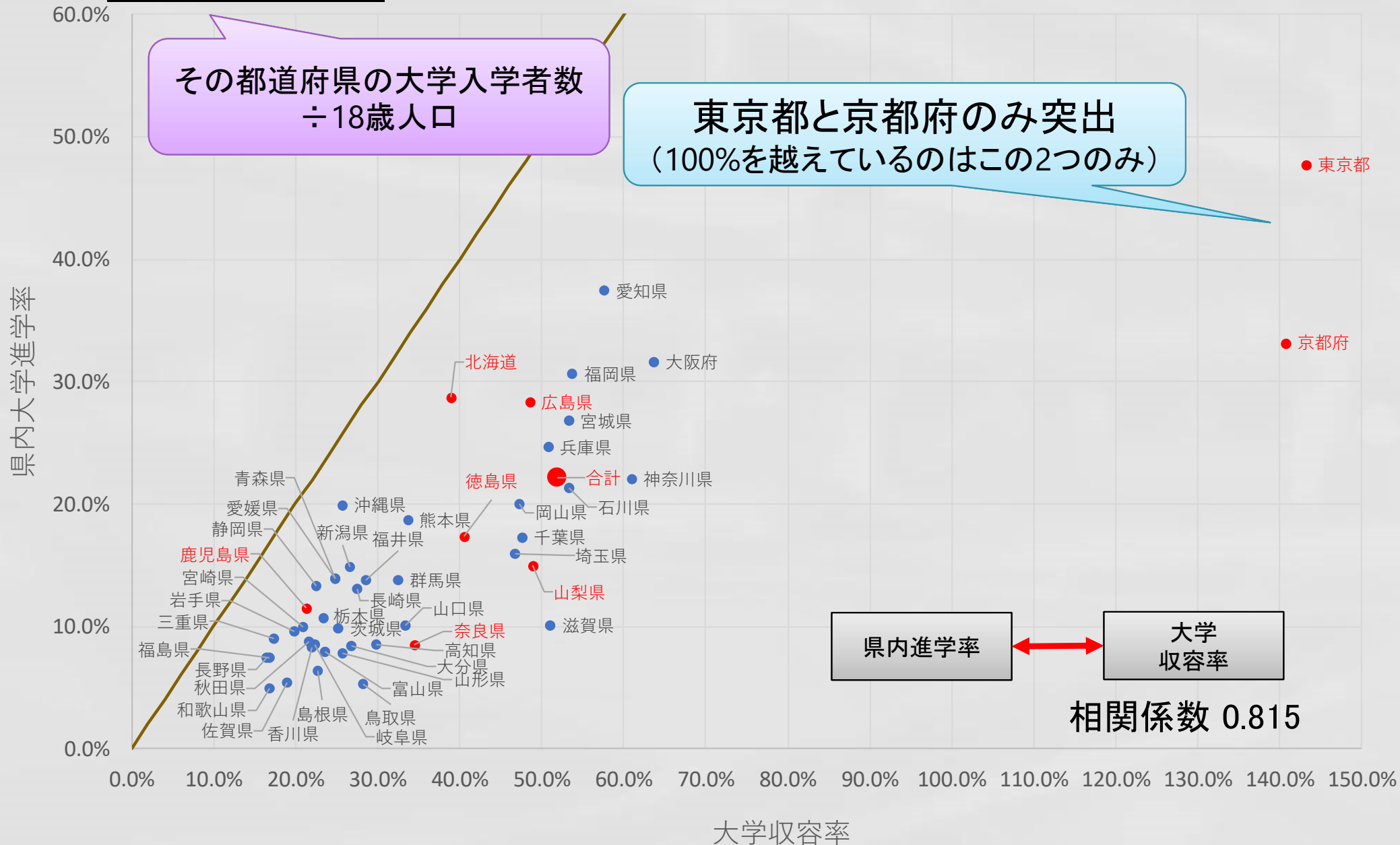
県内と県外

● 県内大学進学率と県外大学進学率は負の相関



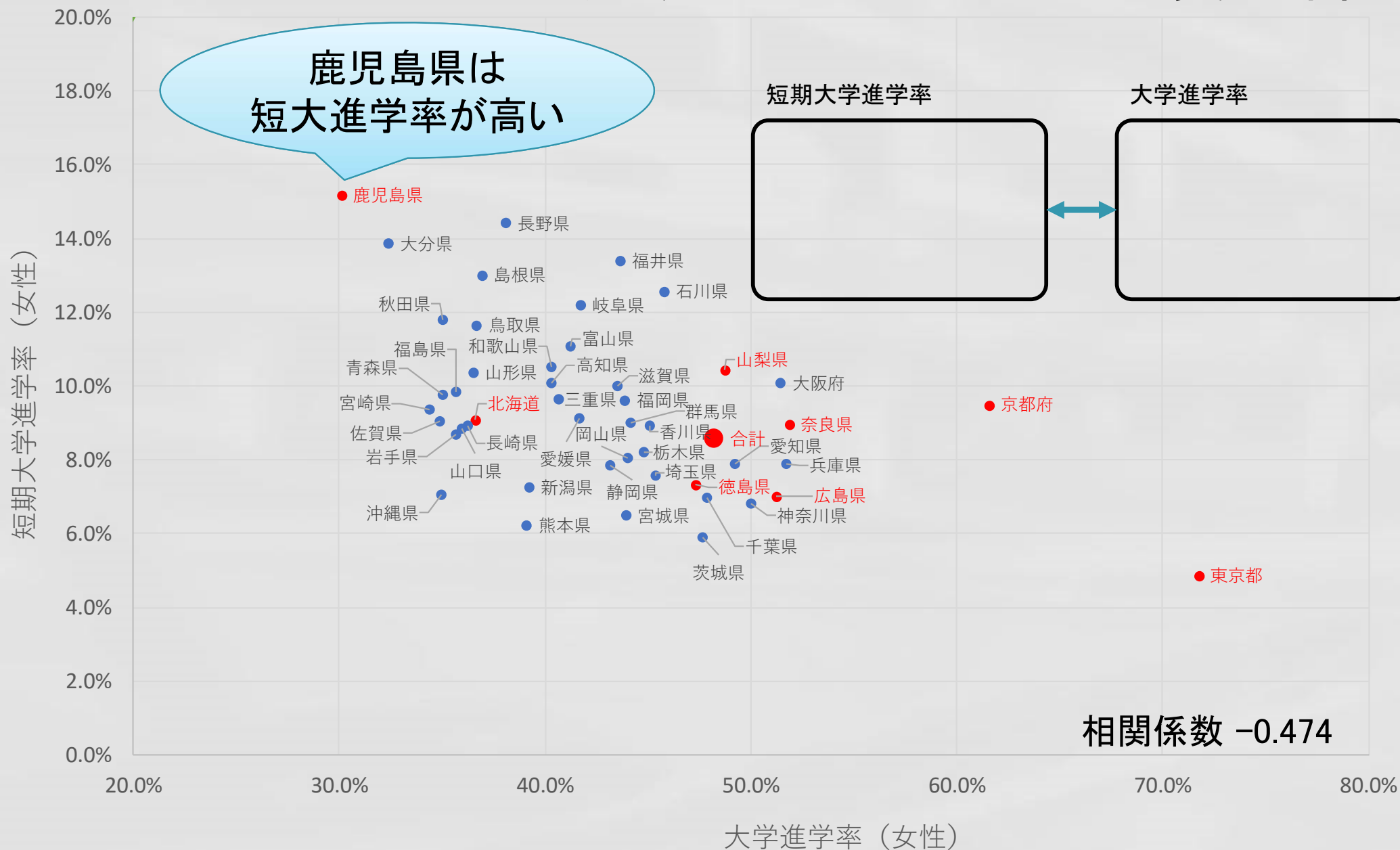
収容率

● 大学収容率と県内大学収容率は正の相関



大学と短期大学

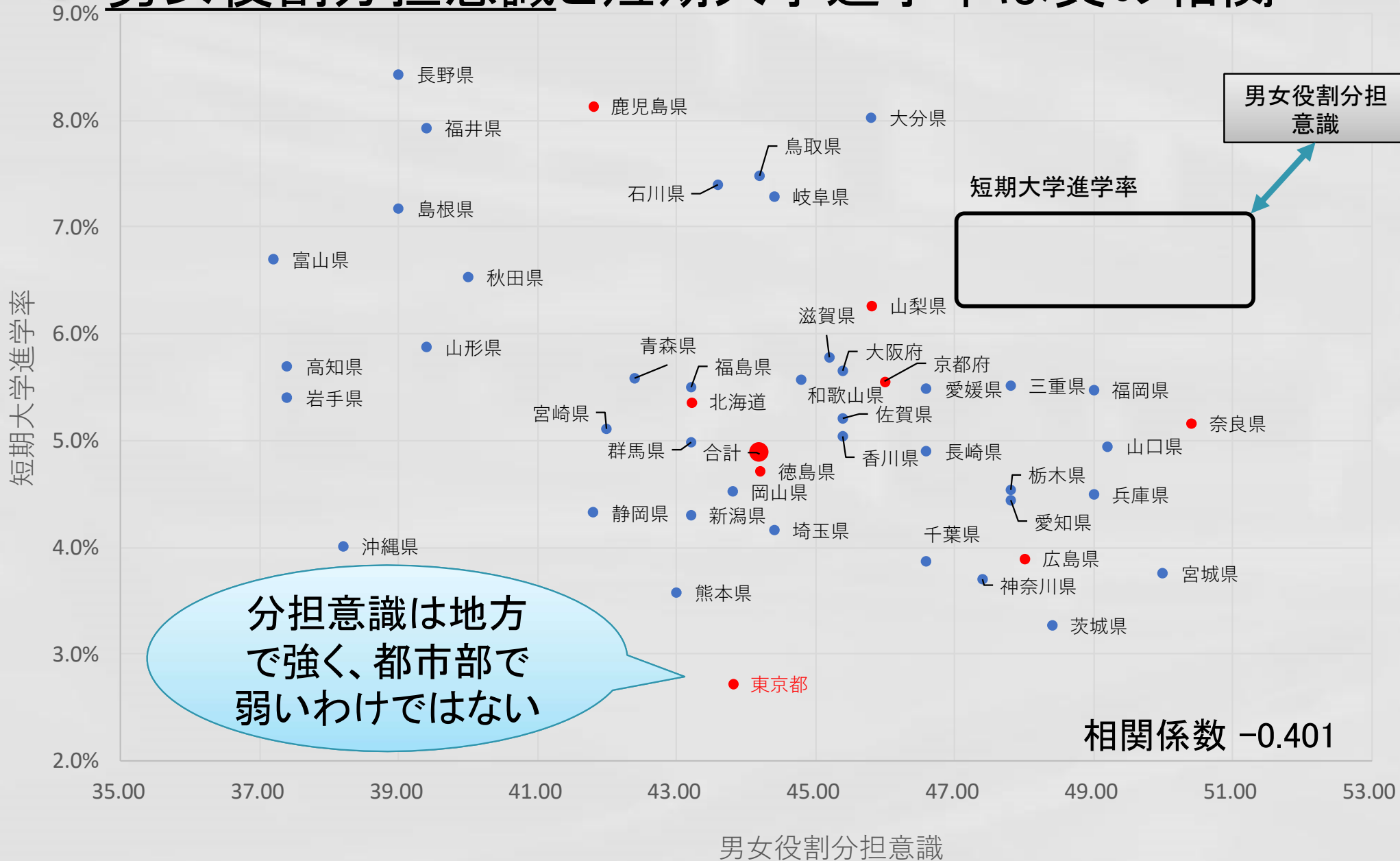
● 大学進学率(女性)と短期大学進学率(女性)は負の相関



男女役割分担意識

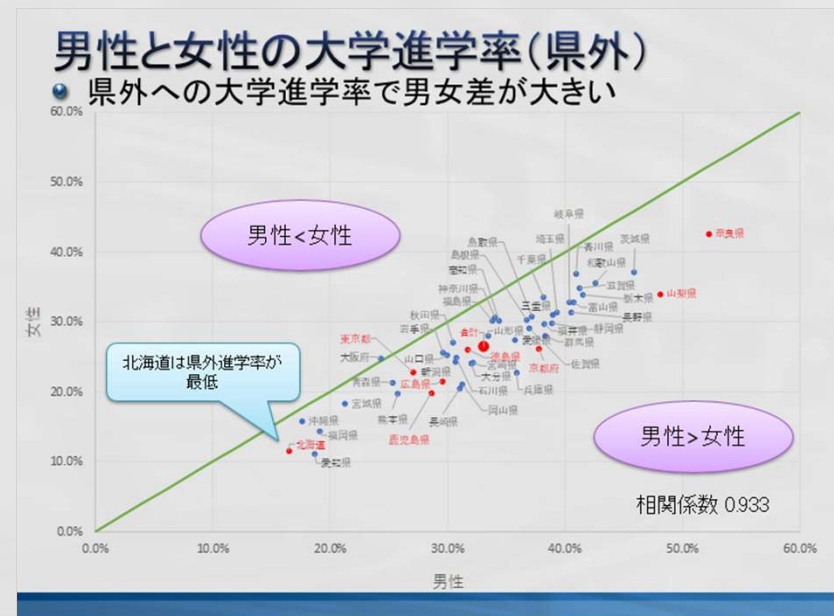
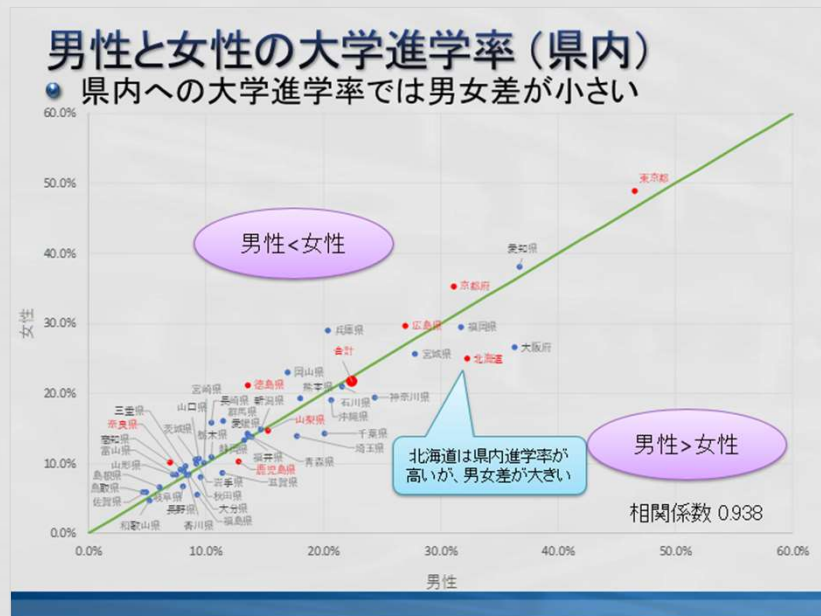
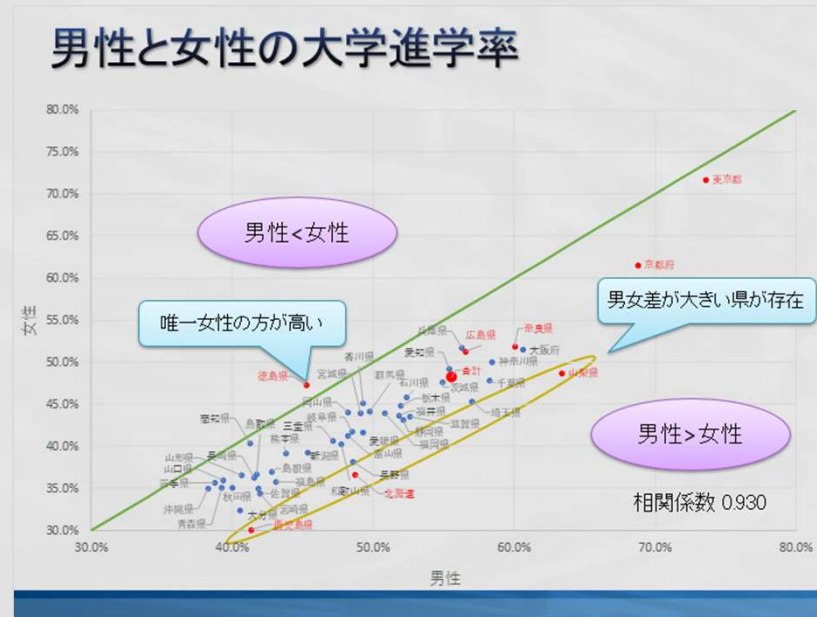
内閣府調査:「自分の家庭の理想は、「夫が外で働き、妻が家を守る」ことだ」について、「そう思う」と「ややそう思う」

男女役割分担意識と短期大学進学率は負の相関

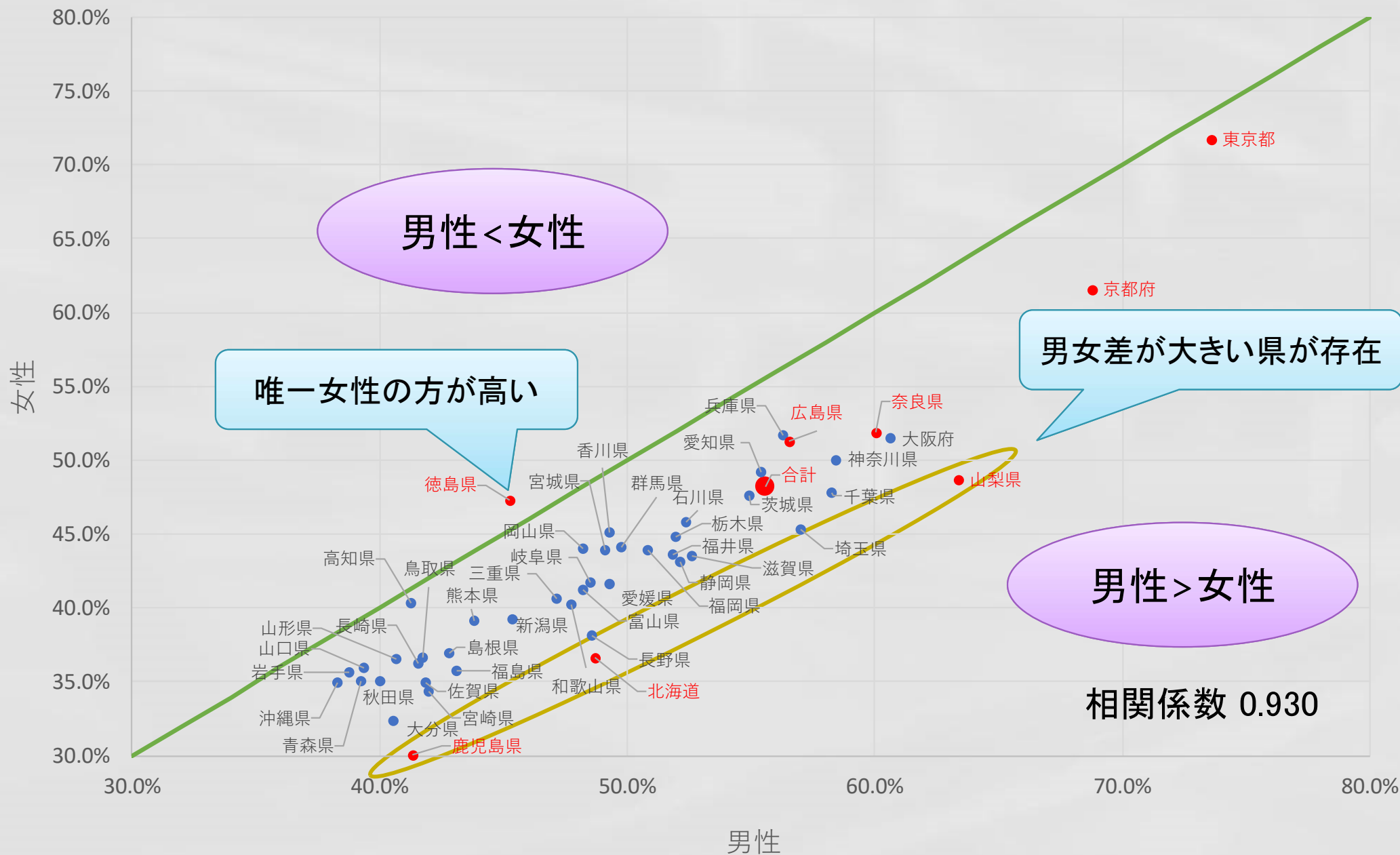


地域毎の男女格差の時系列分析

まずは現時点の男女格差を見ると・・・

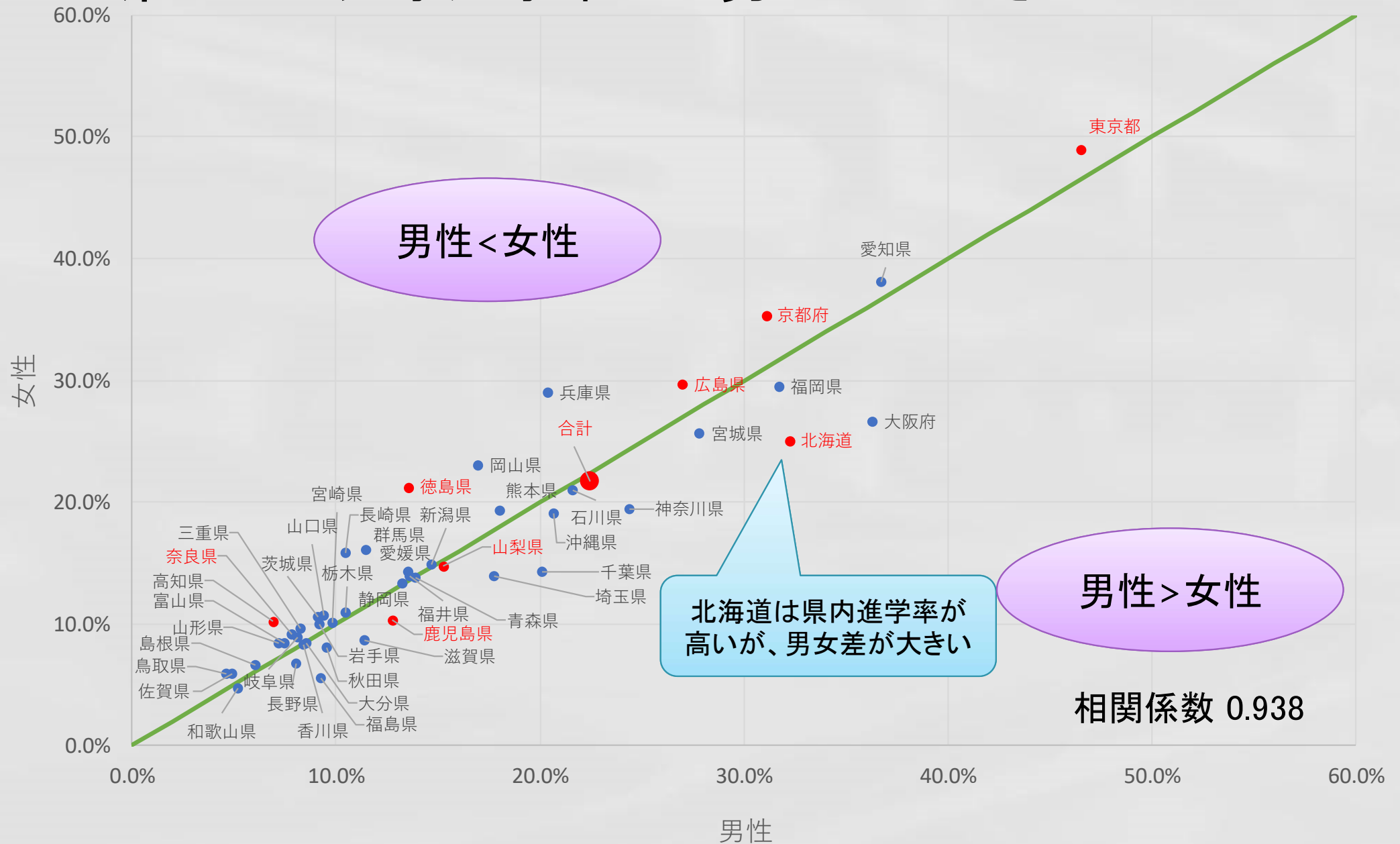


男性と女性の大学進学率



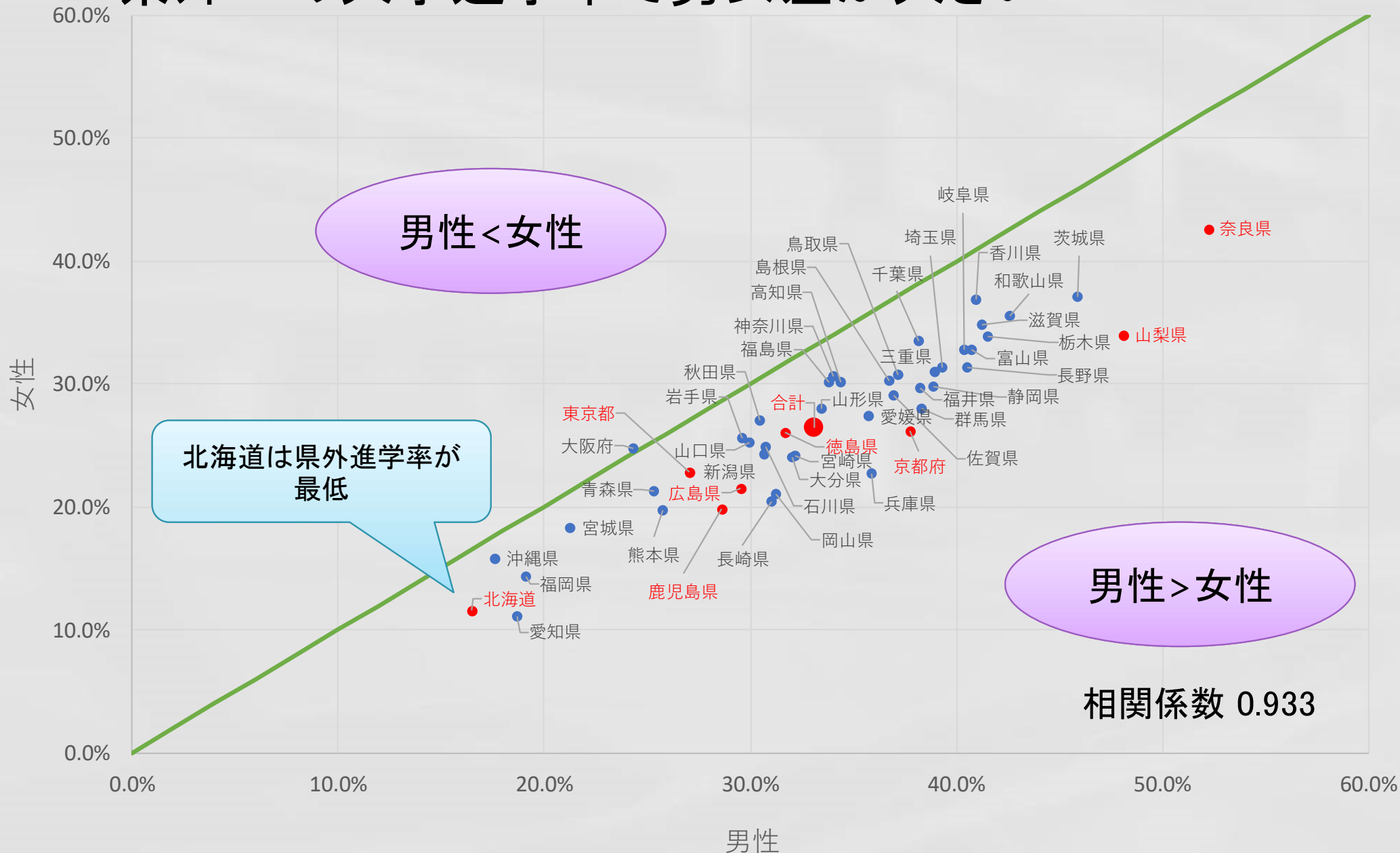
男性と女性の大学進学率（県内）

● 県内への大学進学率では男女差が小さい



男性と女性の大学進学率(県外)

● 県外への大学進学率で男女差が大きい



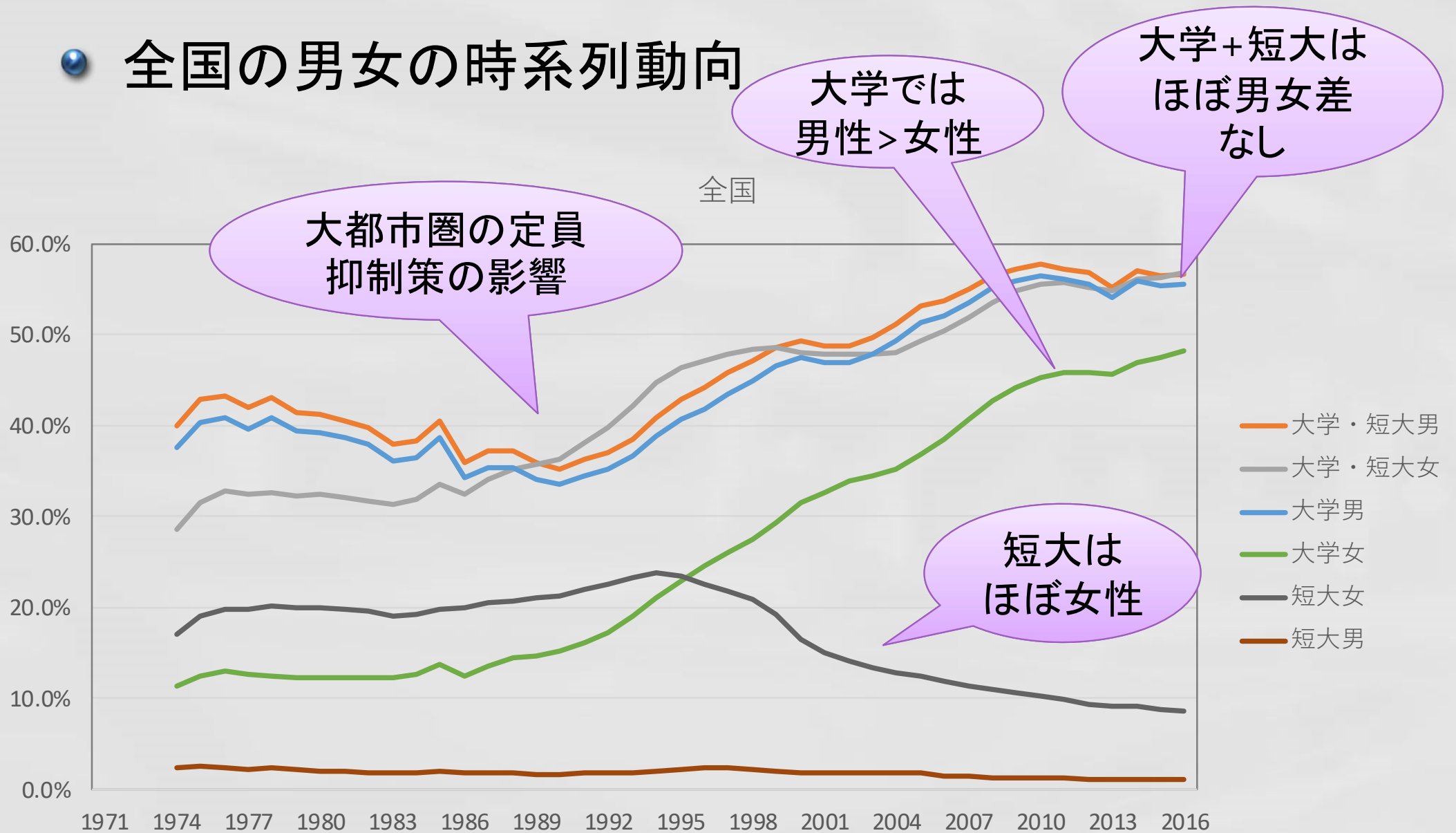
地域毎の男女格差のパターン

特徴的な都道府県
を事例分析

タイプ	都道府県	特徴
高位解消タイプ	東京都 (京都府)	全国と同様に男性と女性の大学進学率が共に上昇する中で、女性の大学進学率が男性の進学率に追いついている。
男性加速・格差維持タイプ	山梨県 (奈良県)	女性の大学進学率が全国並に上昇する中で、男性の大学進学率が全国を上回って上昇したため、男女差が存在している。県内進学率が低く、県外進学率が高い。
男性伸び悩み・格差解消タイプ	広島県、 徳島県	男性の大学進学率が伸び悩んでいるために女性の進学率が追いついて相対的に低い大学進学率で男女差が解消している。
男女並走・格差維持タイプ	北海道	大学の進学率が低かったために、男性の大学進学率も女性の進学率と同様に上昇しており、男女差が解消されていない。
旧態依然タイプ	鹿児島県	大学の進学率が男女とも低いままで上昇が緩慢であり、男女差も解消されていない。

大学、短期大学の進学率の推移

● 全国の男女の時系列動向

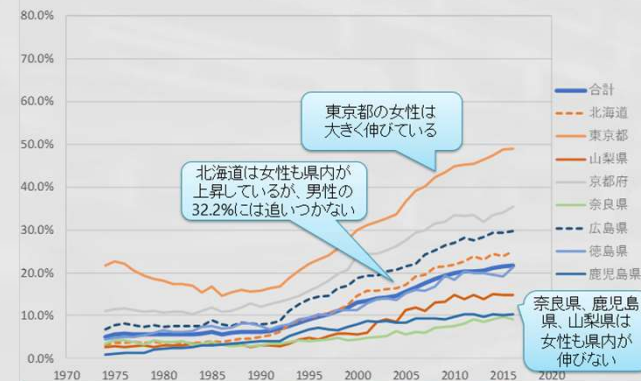


特徴的な都道府県を見て見ると・・・

大学進学率の時系列推移(男性、県内)



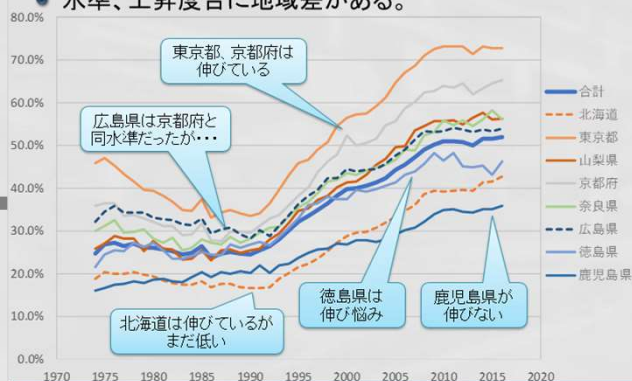
大学進学率の時系列推移(女性、県内)



県内

大学進学率の時系列推移

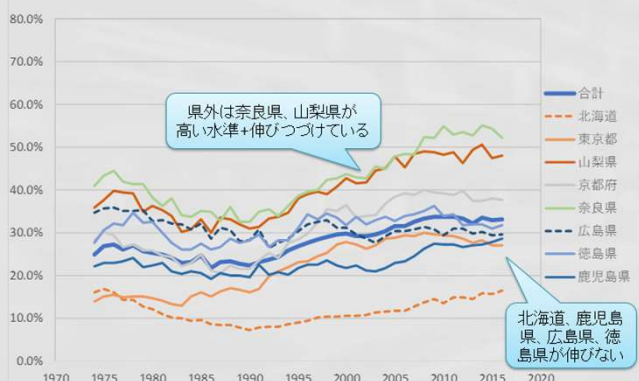
水準、上昇度合に地域差がある。



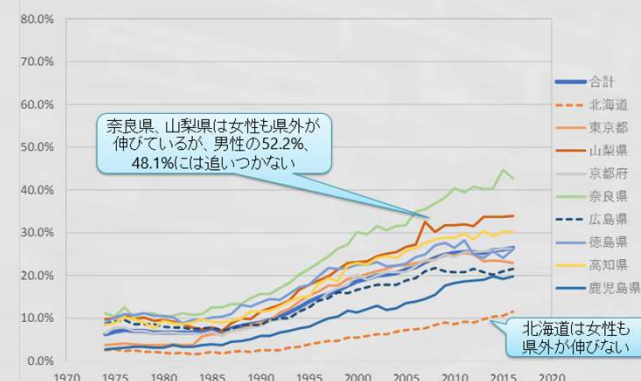
男性

女性

大学進学率の時系列推移(男性、県外)



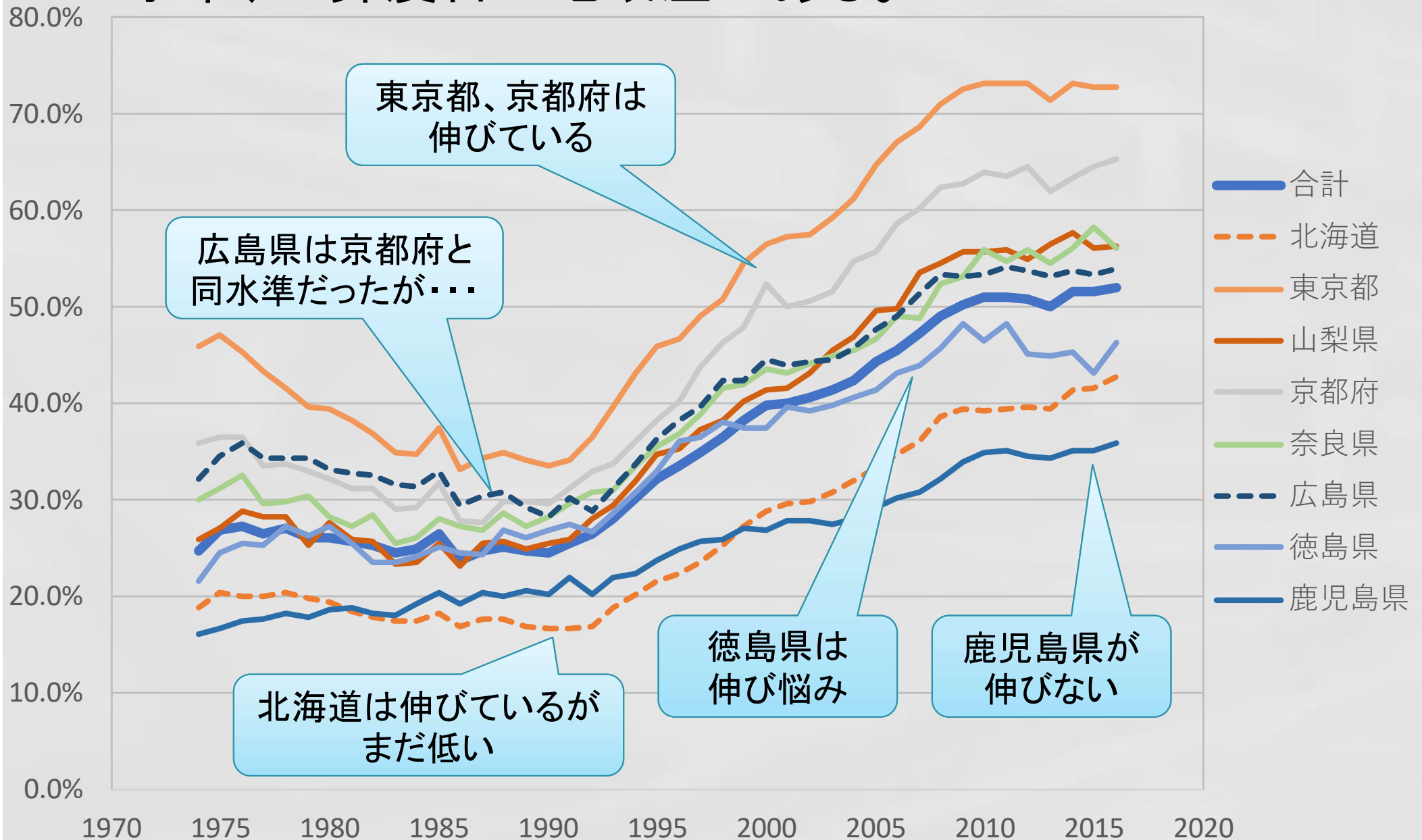
大学進学率の時系列推移(女性、県外)



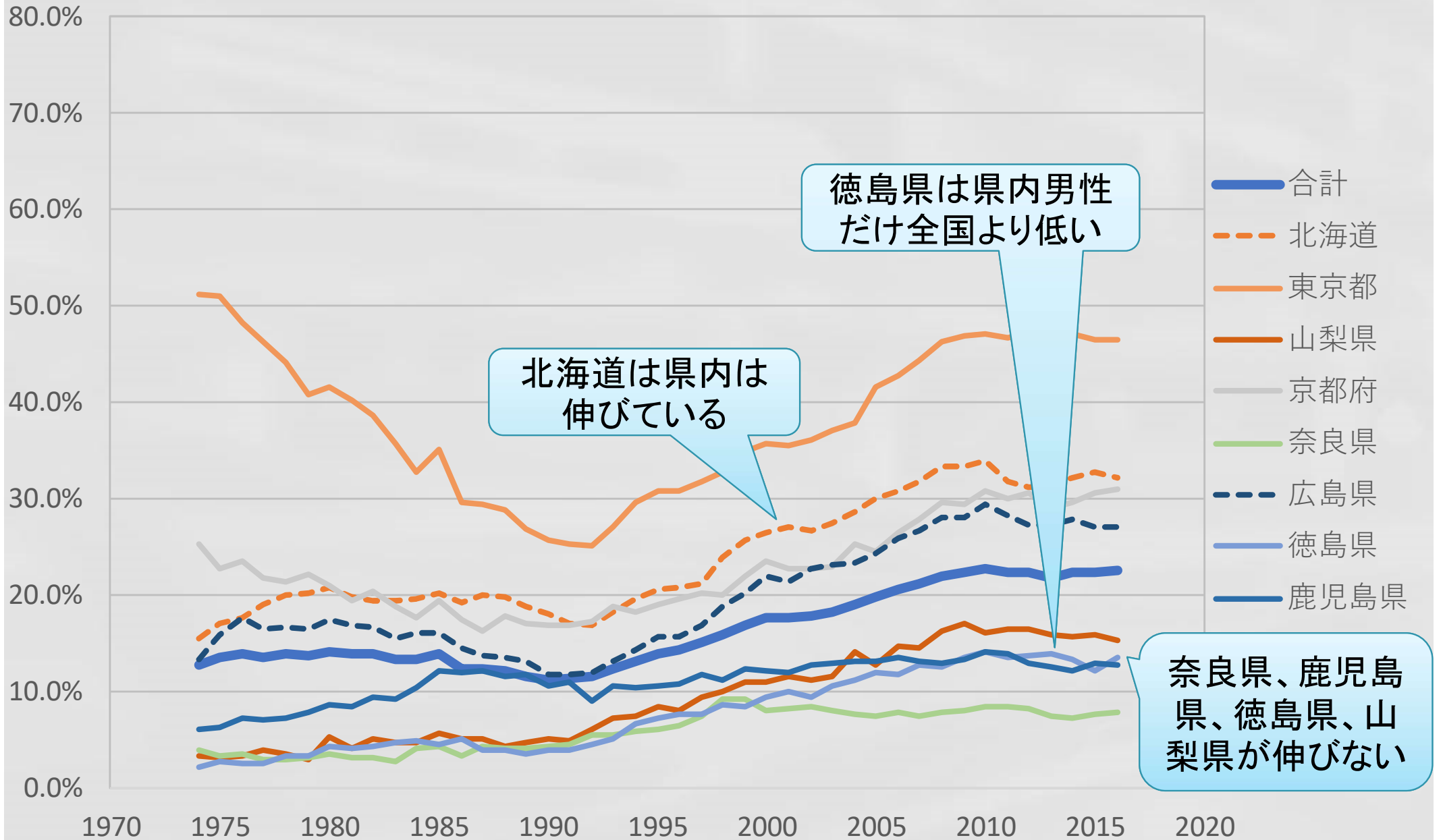
県外

大学進学率の時系列推移

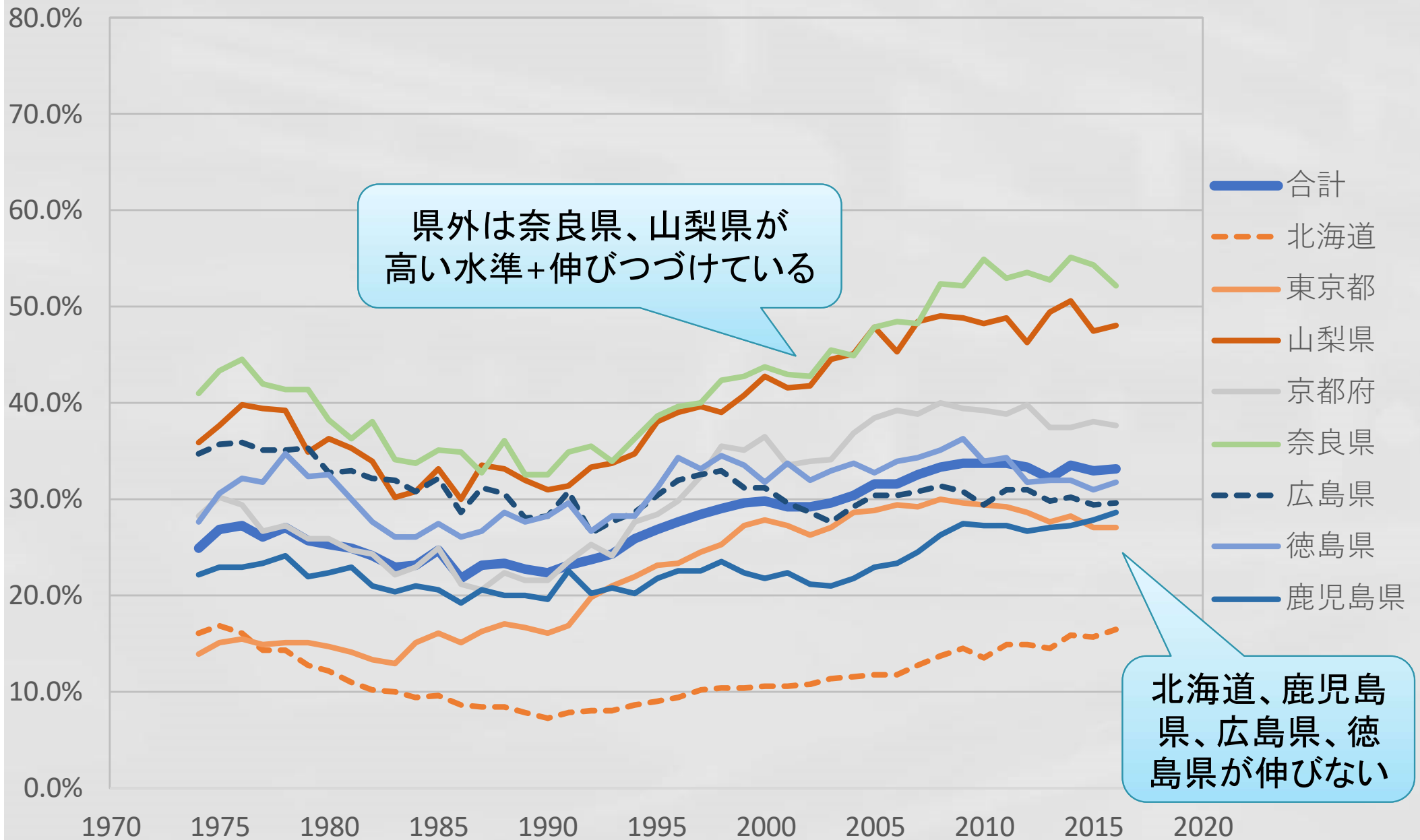
● 水準、上昇割合に地域差がある。



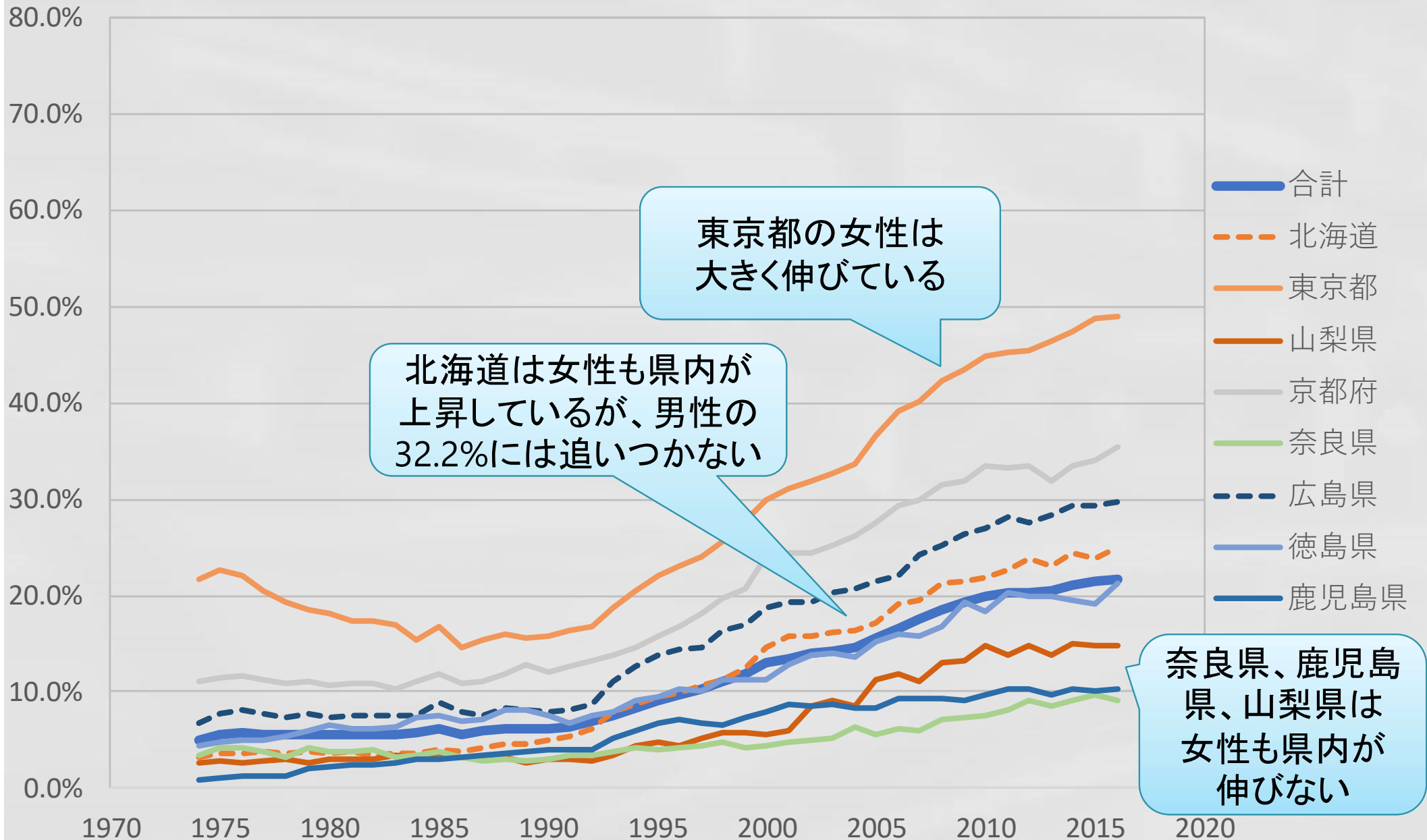
大学進学率の時系列推移(男性、県内)



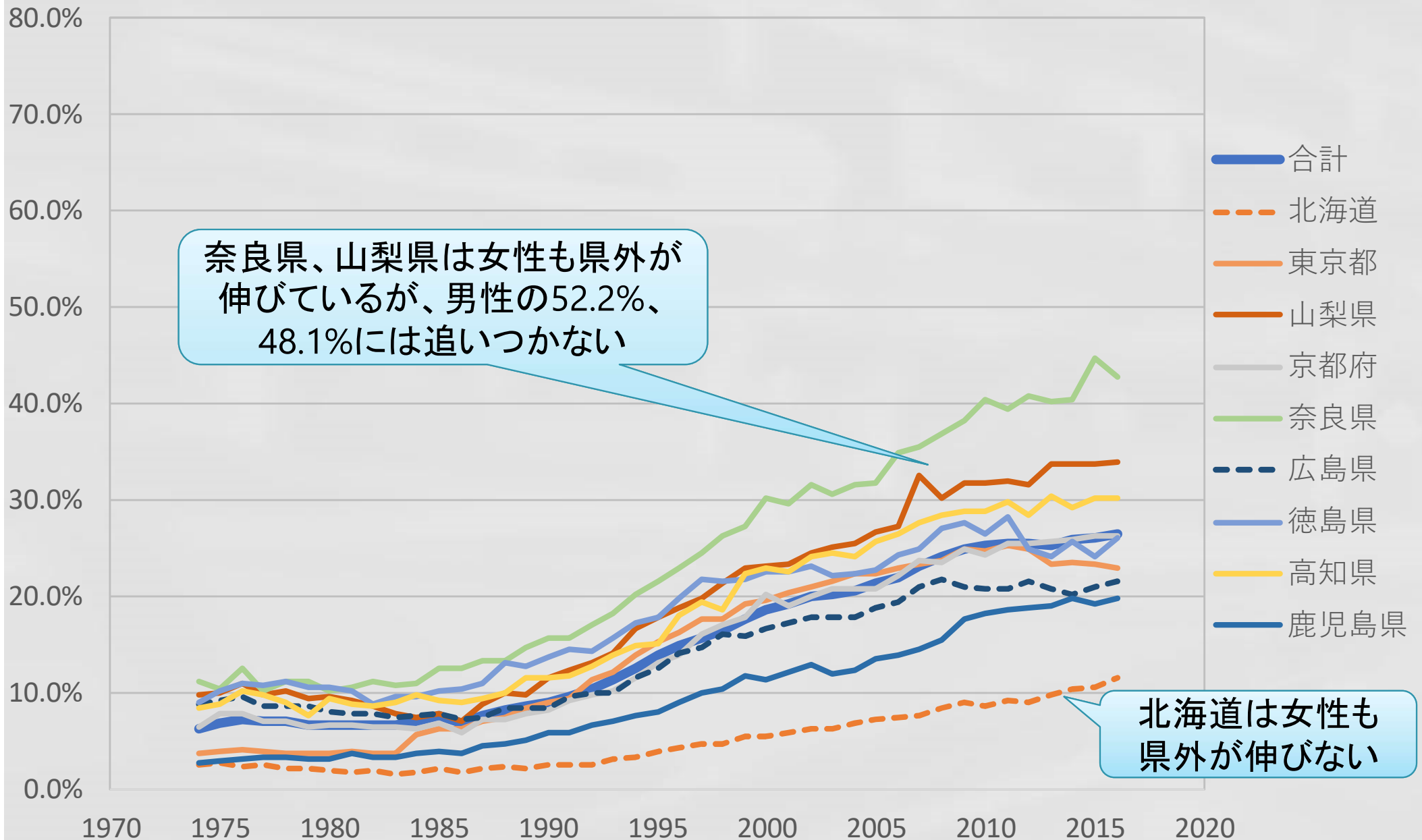
大学進学率の時系列推移(男性、県外)



大学進学率の時系列推移(女性、県内)



大学進学率の時系列推移(女性、県外)

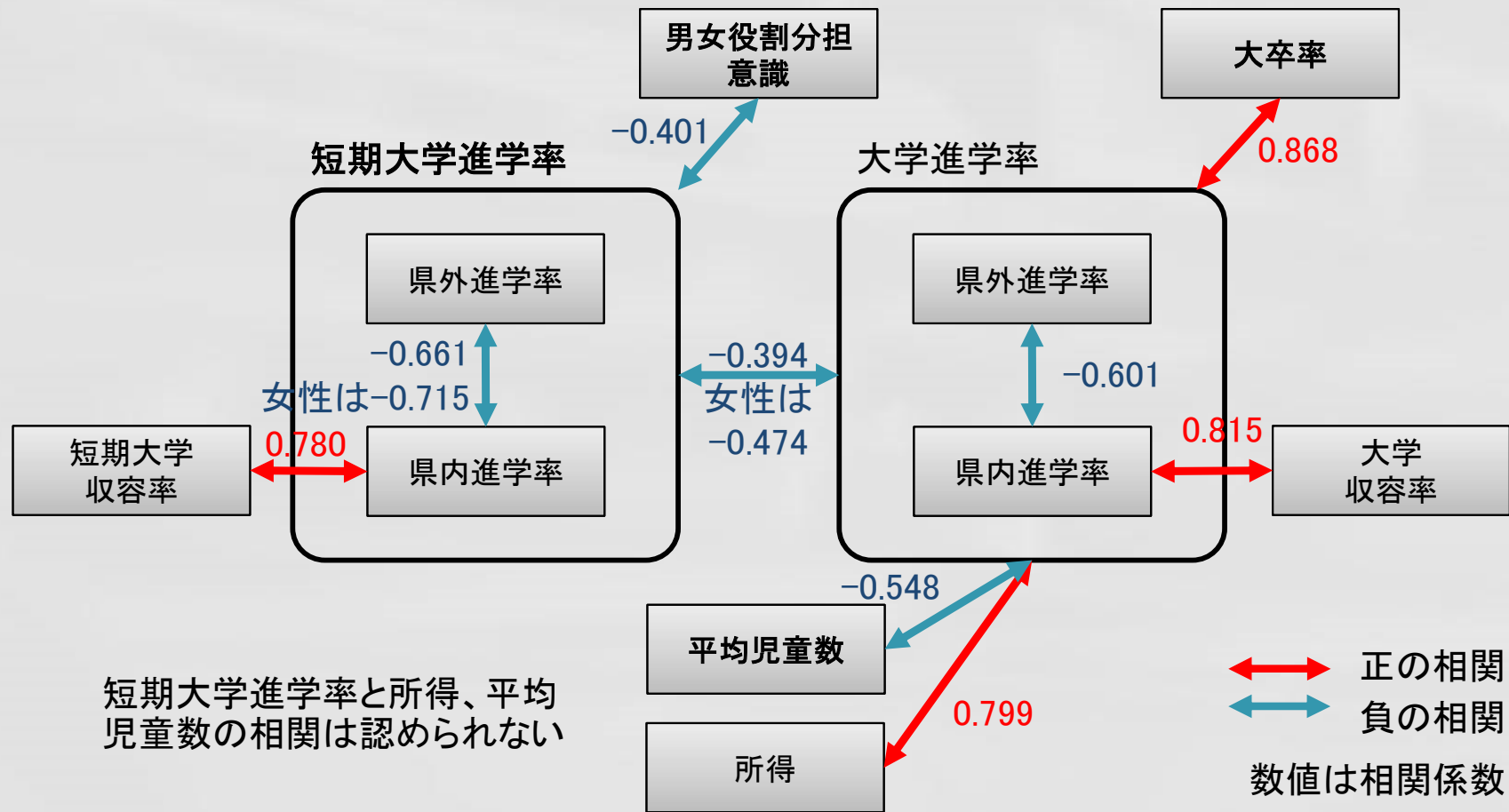


奈良県、山梨県は女性も県外が伸びているが、男性の52.2%、48.1%には追いつかない

北海道は女性も県外が伸びない

まとめ

今回明らかになった要因の全体像(再掲)



地域毎の男女格差のパターン(再掲)

特徴的な都道府県
を事例分析

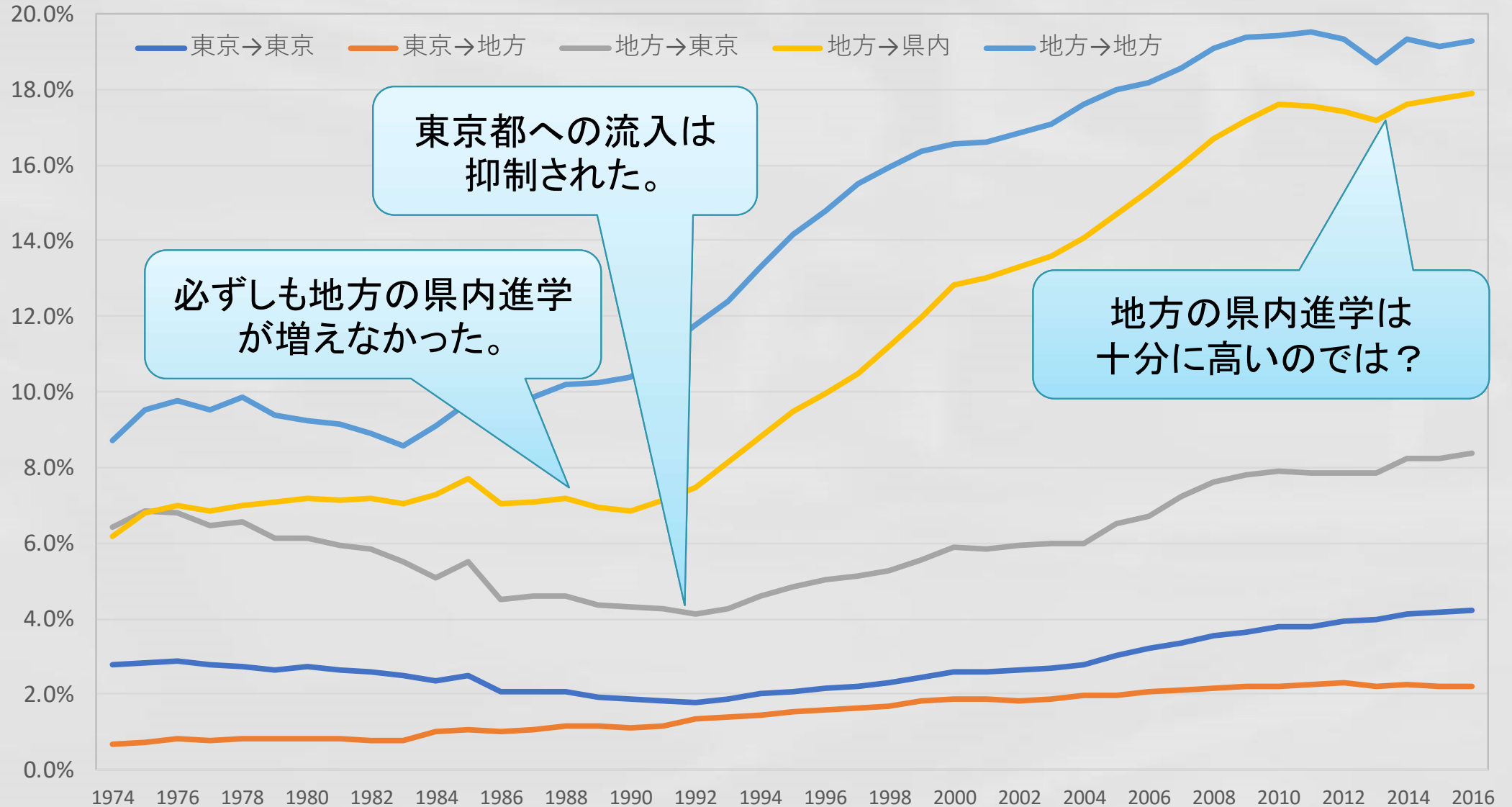
タイプ	都道府県	特徴
高位解消タイプ	東京都 (京都府)	全国と同様に男性と女性の大学進学率が共に上昇する中で、女性の大学進学率が男性の進学率に追いついている。
男性加速・格差維持タイプ	山梨県 (奈良県)	女性の大学進学率が全国並に上昇する中で、男性の大学進学率が全国を上回って上昇したため、男女差が存在している。県内進学率が低く、県外進学率が高い。
男性伸び悩み・格差解消タイプ	広島県、 徳島県	男性の大学進学率が伸び悩んでいるために女性の進学率が追いついて相対的に低い大学進学率で男女差が解消している。
男女並走・格差維持タイプ	北海道	大学の進学率が低かったために、男性の大学進学率も女性の進学率も同様に上昇しており、男女差が解消されていない。
旧態依然タイプ	鹿児島県	大学の進学率が男女とも低いままで上昇が緩慢であり、男女差も解消されていない。

政策への示唆

- 都道府県毎に特性が異なるので、個別に分析して対策を考える必要がある。
- 女性の大学進学率を高めるには？
 - 特に県外大学進学率の向上が鍵。女性の自宅外通学を抑制する規範を弱めることができるか。
 - 短期大学進学者を大学進学者に転換させる。
- 県外への人口流出を減少させるには？
 - 過去の大都市圏定員抑制の影響を見ると、東京都の大学定員抑制が適切かは疑問。(参考資料参照)
 - むしろ、地域で雇用を生み出していくことも含めてUターンを促進していくという「正攻法」が重要。

(参考) 過去の大都市圏定員抑制の影響

東京都と地方の進学移動



(参考) 大学進学率の東京への依存度

● 北海道・東北・関東では東京への進学が大きな割合

大学進学率

■ 大学進学率（県内） ■ 大学進学率（東京都） ■ 大学進学率（京都府） ■ 大学進学率（東京都、京都府以外県外）

